

平成22年10月29日

「未利用竹を活用した地域農業振興への取り組み」について

香川大学農学部は、三豊市の「バイオスタウン構想」にもとづき、未利用竹を中心とするバイオマス資源の畜産資材化や堆肥の利用などに関する研究を本格開始しました。

本年6月、香川大学と三豊市は、研究交流、技術交流、知識交流を通して、教育・研究および技術の進展並びに地域の活性化を図ることを目的とした包括的連携・協力に関する協定を締結しました。この度、この協定にもとづく活動の一環として、本学農学部と三豊市は、平成22年3月に策定された「三豊市バイオスタウン構想」におけるバイオマス資源の畜産資材化および堆肥の利用などの研究を本格開始しました。

荒廃した竹林が拡大すると土砂災害や地すべりの危険があるとされ、防災の観点からも竹林の適性管理が求められています。本学農学部と三豊市は、このような荒廃竹林から未利用の竹を原料として、竹の畜産資材としての利用に関する研究並びに竹粉を含むバイオマスの堆肥化とそれを用いた米・野菜・果樹の栽培に係る研究を進めております。

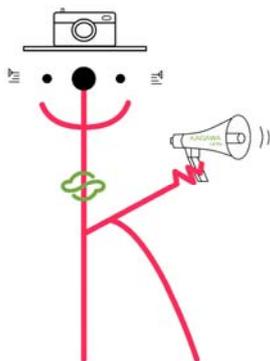
< 研究の概要 >

竹の畜産資材としての利用に関する研究では、竹の化学成分の調査を行い、その化学的特徴を明らかにする共に、粗飼料の代替として竹粉の利用、竹粉を発酵処理した発酵産物の飼料添加物としての利用および畜舎床への敷料としてオガクズなどの代替としての利用について調査します。このような竹の畜産資材としての活用は放置竹林の問題の解決だけでなく、安全で高品質な畜産物の低コスト生産を図ることができます。

また、竹粉等を含むバイオマスの堆肥化と、それを用いた米・野菜・果樹等の栽培に関する研究では、農業廃棄物や生ごみ等の従来廃棄処理されていたバイオマス材料、竹発酵物、家畜の排せつ物などを堆肥化し、それらの堆肥を用いることによる米、野菜、果樹の品質、収量等を調査しています。この結果を応用し、廃棄処理されていたバイオマス材料の有効活用と、安全・安心で、高品質の農産品を実現し、地域特産品とすることで地域の活性化を図ることができます。

(参考資料参照)

以上



➤ 問い合わせ先

香川大学 農学部 教授 奥田延幸

TEL : 087-891-3073 FAX : 087-891-3073

E-mail : okuda@ag.kagawa-u.ac.jp

本年6月



香川大学



三豊市



研究交流

技術交流

知識交流

教育・研究・技術の進展
地域の活性化

包括的連携・協力に関する協定を締結

三豊市 「三豊市バイオマスタウン構想」(平成22年3月 策定)

荒廃竹林からの未利用竹 有効活用(三豊市竹林1500ha)

目標利用量 約15000トン

農学部

- ・畜産資材化
- ・堆肥の利用

などの研究を本格開始



Kagawa University

未利用竹を活用した地域農業振興への取り組み

農学部

竹の畜産資材としての
利用に関する研究

(畜産チーム)



竹の堆肥化, それを用いた
水稻, 野菜, 果樹
の栽培に関する研究

(植物チーム)

